Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォガイド

Nagoya Glorious Chapel

2024.10.21-27

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

21日　月曜

ガラテア

2:11 ところが、ケファがアンティオキアに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。
2:12 ケファは、ある人たちがヤコブのところから来る前は、異邦人と一緒に食事をしていたのに、その人たちが来ると、割礼派の人々を恐れて異邦人から身を引き、離れて行ったからです。
2:13 そして、ほかのユダヤ人たちも彼と一緒に本心を偽った行動をとり、バルナバまで、その偽りの行動に引き込まれてしまいました。
2:14 彼らが福音の真理に向かってまっすぐに歩んでいないのを見て、私は皆の面前でケファにこう言いました。「あなた自身、ユダヤ人でありながら、ユダヤ人ではなく異邦人のように生活しているのならば、どうして異邦人に、ユダヤ人のように生活することを強いるのですか。」
2:15 私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、「異邦人のような罪人」ではありません。
2:16 しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによっては義と認められないからです。
2:17 しかし、もし、私たちがキリストにあって義と認められようとすることで、私たち自身も「罪人」であることになるのなら、キリストは罪に仕える者なのですか。決してそんなことはありません。
2:18 もし自分が打ち壊したものを再び建てるなら、私は自分が違反者であると証明することになるのです。
2:19 しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。
2:20 もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。
2:21 私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

パウロが意図したのはケファすなわちペテロへの批判ではありません。彼の評判を貶めるためにこれを書いているのではないことは明らかです。9節にあるように、パウロはペテロを尊重していたのです。だからこそ彼はペテロを非難したのでしょう。ペテロの行動が影響力を持っていたからであり、ペテロと共に一致かたかったからです。

ただし、その後にペテロがどのように弁明したかは書かれていません。彼は彼で信仰の弱い人への配慮をしていたのかも知れないのです。ここでパウロが強い口調で論じているのは、福音の十全性です。十字架は救いにとって必要にして十分であるということです。これはどんなに強調してもし過ぎることはありません。

たとえ人間関係が壊れたとしても（ペテロとの仲は悪くなりませんでしたが）、イエス様の十字架の救いが損なわれることは避けなければなりません。

パウロのように永遠の命を何よりも大切なものとし、イエス様の十字架を何よりも尊いものとして、行動を決めて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

22日　火曜

ガラテア

3:1 ああ、愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、目の前に描き出されたというのに、だれがあなたがたを惑わしたのですか。
3:2 これだけは、あなたがたに聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。
3:3 あなたがたはそんなにも愚かなのですか。御霊によって始まったあなたがたが、今、肉によって完成されるというのですか。
3:4 あれほどの経験をしたのは、無駄だったのでしょうか。まさか、無駄だったということはないでしょう。
3:5 あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で力あるわざを行われる方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなさるのでしょうか。それとも信仰をもって聞いたから、そうなさるのでしょうか。
3:6 「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあるとおりです。
3:7 ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子である、と知りなさい。
3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とお認めになることを前から知っていたので、アブラハムに対して、「すべての異邦人が、あなたによって祝福される」と、前もって福音を告げました。
3:9 ですから、信仰によって生きる人々が、信仰の人アブラハムとともに祝福を受けるのです。

ガラテヤの教会にはにせ教師が入って来て、律法を守り割礼を受けなければ救われないと説きました。

Bible Reference 聖書の記述

律法も割礼も悪いことではありません。どちらも主の命令に従うという点では、むしろ良いものです。しかしどんなに良いものでも、イエス様の十字架と同列に置くことはできません。ましてやイエス様の救いのみわざに欠けがあるかのように、救いの条件としてしまうのは大きな過ちです。

ですから教会でも、十字架の救いが条件であるはずの洗礼に関して、長く礼拝に来ているから、両親が熱心なクリスチャンだから、奉仕してくださっているから、などということで受先を勧めたりはしないのです。

また救われた後も信仰の成長のために必要なのは聖霊であって、決して律法ではありません。私たちも何かの律法的基準を設けて、完成されているとかいないとかを議論することはないのです。救われた後の良い行いは、すべて聖霊によって、イエス様を愛する思いから生まれるものであって、自分の頑張りで人と比べて達成するようなものではありません。

律法はユダヤ人の専売特許と思われますが、その始祖アブラハムも、「神を信じ、それが彼の義とみなされ」、信仰によって異邦人も救われるからこそアブラハムによって「すべての国民が祝福される」との約束があったのです。

ですからあらゆる点からいって、救いも成長も律法的な頑張りによるものでなく、すなわち人間の力ではなく、神である聖霊の力です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

23日 水曜

ガラテア

3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。
3:11 律法によって神の前に義と認められる者が、だれもいないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる」からです。
3:12 律法は、「信仰による」のではありません。「律法の掟を行う人は、その掟によって生きる」のです。
3:13 キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。
3:14 それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。
3:15 兄弟たちよ、人間の例で説明しましょう。人間の契約でも、いったん結ばれたら、だれもそれを無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。
3:16 約束は、アブラハムとその子孫に告げられました。神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言っておられます。それはキリストのことです。
3:17 私の言おうとしていることは、こうです。先に神によって結ばれた契約を、その後四百三十年たってできた律法が無効にし、その約束を破棄することはありません。
3:18 相続がもし律法によるなら、もはやそれは約束によるのではありません。しかし、神は約束を通して、アブラハムに相続の恵みを下さったのです。

Bible Reference 聖書の記述

イエス様は自ら「のろわれたもの」となって、私たちの受けるべき「のろい」を身に受けてくださいました。ですからその身代わりの十字架を受け入れることで、私たちの救いはもたらされます。逆にそれを拒絶するなら、救いも拒絶されるのです。

そのことはクリスチャンなら誰でも知っていることで、自分は強い意志で律法を守って救われたという人はいないでしょう。しかし、救われた後に、自分の意志で律法的に頑張ろうとする人もいます。

「信仰によって生き」ましょう。それは律法より前、アブラハムの時代に神様から約束された祝福であり、生きた神様との交わりによるものです。毎日の神様との交わりが大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

24日 木曜

ガラテア

3:19 それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。
3:20 仲介者は、当事者が一人であれば、いりません。しかし約束をお与えになった神は唯一の方です。
3:21 それでは、律法は神の約束に反するのでしょうか。決してそんなことはありません。もし、いのちを与えることができる律法が与えられたのであれば、義は確かに律法によるものだったでしょう。
3:22 しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人たちに与えられるためでした。
3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。
3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。
3:25 しかし、信仰が現れたので、私たちはもはや養育係の下にはいません。
3:26 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。
3:27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。
3:28 ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。

Bible Reference 聖書の記述

3:29 あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

神様は律法による救いを明言しながら、しかしキリストによる救いを与えられました。そこで「律法は神の約束に反するのでしょうか。」という問いかけがなされますが、「そんなことはありあません。」とパウロは言います。なぜなら人は律法を守りきることができないので、救われることがないから、神様はキリストによる救いを与えてくださったのです。

そこで、では律法とは何のためにあったのかという問いが生まれますが、パウロはそれは「私たちをキリストへ導くため」であったと言います。つまり律法があることによって、神の義を知り、その義を全うできない自分の弱さや罪深さを自覚するということです。

ですから律法的に生きてしまう弱さを私たちは持っていますが、それによって自分の弱さを自覚して、そこからイエス様の十字架の愛と聖霊の力に立ち返るべきです。

そのように十字架のあわれみで生きることが、自分を誇らないで、互いに「一つ」となれる道なのです。クリスチャンの群れはそのように、十字架のもとで謙遜になる人々によって成り立っているものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

25日 金曜

ガラテア

4:1 つまり、こういうことです。相続人は、全財産の持ち主なのに、子どもであるうちは奴隷と何も変わらず、
4:2 父が定めた日までは、後見人や管理人の下にあります。
4:3 同じように私たちも、子どもであったときには、この世のもろもろの霊の下に奴隷となっていました。
4:4 しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。
4:5 それは、律法の下にある者を贖い出すためであり、私たちが子としての身分を受けるためでした。
4:6 そして、あなたがたが子であるので、神は「アバ、父よ」と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。
4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神による相続人です。
4:8 あなたがたは、かつて神を知らなかったとき、本来神ではない神々の奴隷でした。
4:9 しかし、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうして弱くて貧弱な、もろもろの霊に逆戻りして、もう一度改めて奴隷になりたいと願うのですか。
4:10 あなたがたは、いろいろな日、月、季節、年を守っています。
4:11 私は、あなたがたのために労したことが無駄になったのではないかと、あなたがたのことを心配しています。

私たちはもはや神様の子どもであって、また相続人でもあります。相続するのは永遠の莫大な財産ですが、それは地上の消えてゆくようなお金や権力などではありません。そのような天の財産は、地上でも主の恵によって必要なときには与えられます。マラキ書にあるように、主に信頼してささげる者には、天の窓を開いてあふれるばかりに注いでくださるのです。

また唯一の神ではない、「神々」というような人間が作ったものを拝んでいたときには、子どもではなく奴隷でした。なぜなら、何かをささげなければ救われないという縛りの中にあったからです。

ですから、何かをささげなければ…というように、律法を守らなければ救われない、全うできないという生き方は奴隷のようなものなのです。

私たちは神の子どもであって奴隷ではないので、愛の中で育まれ、生かされ、そして成長しきよめられるのです。義務感から脱出して、神の愛の中で愛を感じて、愛に満たされて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

26日 土曜

ガラテア

4:12 兄弟たち、あなたがたに願います。私もあなたがたのようになったのですから、あなたがたも私のようになってください。あなたがたは私に悪いことを何一つしていません。
4:13 あなたがたが知っているとおり、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かったためでした。
4:14 そして私の肉体には、あなたがたにとって試練となるものがあったのに、あなたがたは軽蔑したり嫌悪したりせず、かえって、私を神の御使いであるかのように、キリスト・イエスであるかのように、受け入れてくれました。
4:15 それなのに、あなたがたの幸いは、今どこにあるのですか。私はあなたがたのために証ししますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出して私に与えようとさえしたのです。
4:16 それでは、私はあなたがたに真理を語ったために、あなたがたの敵になったのでしょうか。
4:17 あの人たちはあなたがたに対して熱心ですが、それは善意からではありません。彼らはあなたがたを私から引き離して、自分たちに熱心にならせようとしているのです。
4:18 善意から熱心に慕われるのは、いつでも良いことです。それは、私があなたがたと一緒にいる時だけではありません。
4:19 私の子どもたち。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。
4:20 私は今、あなたがたと一緒にいて、口調を変えて話せたらと思います。あなたがたのことで私は途方に暮れているのです。

Bible Reference 聖書の記述

パウロにとっては、ガラテヤ教会の人々が本当の福音すなわちキリストの十字架による救いを受け入れたときはすばらしい喜びでした。彼らは感動と感謝を持ってパウロから福音を受けたので、そのパウロが目の病であると知って「自分の目をえぐり出して」与えたいとさえ思ったのでした。

神の救いの愛を解した愛情は強く純粋なものです。永遠の命のために神様が遣わしてくださった人に感謝し、愛し、常に喜びを分かち合いましょう。

しかし、そのガラテヤの人々は今や、間違った福音すなわち律法による救いを教える人々の熱心さに、つられて惑わされてしましました。律法によるということは、その動機がイエス様への愛ではなく、義務感からやっているということです。ですから「あの人々の熱心は正しいものではありません。」ということになるのです。

もしもキリストの愛と犠牲による福音によって救われた私たちが、自分の努力や能力で救われたようなことを言ったり、またはそれで成長しようと思うなら、ここでパウロが言うような苦しみをイエス様にも与えていることを知るべきです。

主の愛の中で聖霊によって、救いを確信し全うし、成長し、用いられていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

27日 日曜

ガラテア

4:21 律法の下にいたいと思う人たち、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。
4:22 アブラハムには二人の息子がいて、一人は女奴隷から、一人は自由の女から生まれた、と書かれています。
4:23 女奴隷の子は肉によって生まれたのに対し、自由の女の子は約束によって生まれました。
4:24 ここには比喩的な意味があります。この女たちは二つの契約を表しています。一方はシナイ山から出ていて、奴隷となる子を産みます。それはハガルのことです。
4:25 このハガルは、アラビアにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、彼女の子らとともに奴隷となっているからです。
4:26 しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。
4:27 なぜなら、こう書いてあるからです。
「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。」
4:28 兄弟たち、あなたがたはイサクのように約束の子どもです。
4:29 けれども、あのとき、肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりになっています。
4:30 しかし、聖書は何と言っていますか。
「女奴隷とその子どもを追い出してください。女奴隷の子どもは、決して自由の女の子どもとともに相続すべきではないのです。」

Bible Reference 聖書の記述

4:31 こういうわけで、兄弟たち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由の女の子どもです。

それでも「律法の下にいたいと思う人たちは」と、パウロは頑固な人々に勧めています。彼の何とかしたいという愛の熱心さが伝わってきます。律法とはイサクの子孫であるイスラエルに与えられたものですが、その本質は「約束」であると、パウロは言います。律法もまた神様からの約束なのです。

であるなら、十字架による救いも、神様からの一方的な救いとその後の聖霊による成長も、神様からの約束です。これは私たちにも関係することです。

すなわち、自分の力で頑張らないといけない思っている場合や、自分の力で信仰生活や主の働きを頑張ってきたと思っている人、神様の愛の約束を忘れて、自分に起源があるかのように勘違いしているのです。

聖霊に導かれている人には自由があります。また喜びがあります。同じように主のみこころを行っているようでも、人をさばいたり不平を言ったりすることはないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？